



Kanto Student

All Japan Badminton Championship 2019

2019年

関東学生バドミントン選手権大会

日時 2019年 6月1日(土) » 6月23日(日)

会場 神奈川大学、葛飾区総合スポーツセンター体育館、市川市塩浜市民体育館 他

◆主催・主管：関東学生バドミントン連盟
◆後援：東京都バドミントン協会

ステータス(贅沢さ)にお金をかける必要のないバドミントンクラブの皆様

国内唯一のシャトル専門メーカーRSL

あなたのクラブの予算はもっと改善できる!



学校部活とクラブに常時納品。練習シャトルの決定版!
全国約7,000の高校・中学のうち3校に1校以上の利用実績

このシャトル『RSL1999Yen』は、全国各地のバドミントンクラブ代表者や顧問の先生方から5年以上に渡りいただいた熱い要望により開発されました。世界最大RSLシャトル工場1,000人の熟練スタッフがそれらの声に動かされて生まれたスーパーリーズナブル練習球です。

この価格でこの飛行性能と耐久性能を持つメーカーが他にあるなら教えていただきたいくらいです。特に、全国の高校・中学校の部活が何度もリピート購入することからも、このシャトルの満足度の高さは折り紙つき。

社会人バドミントンクラブと比べ、毎日のように練習するためシャトル消費量が圧倒的に激しい学校部活。全国約7,000のバドミントンが活発な高校・中学校のうち、なんと3校に1校以上の利用実績があります。

RSL1999Yen
予算を最も効果的に使える練習球の決定版

価格 1本 **2,159円** (税込) (1999円+税)



● 強化シャトルコックの “パイオニア”



RSL(Reinforced Shuttlecock Limited)は、1928年に英国ロンドンで創業しました。当時は小さな会社です。そんなRSLがバドミントンの世界で注目を集めたきっかけは、たった1本の糸。シャトルの羽根を固定するためのかがり糸です。20世紀前半のシャトルは、かがり糸を1段だけ巻くのが常識。しかしRSLは、それとは異なり、かがり糸をもう1段増やした「強化シャトル」の製造を開始。バドミントン界に強烈なインパクトを与えました。今でこそ当たり前のシャトルの形が生まれた瞬間でした。

▶ 世界最大規模シャトルプロデューサー



- 1 RSLは、世界市場の30%以上の水鳥原毛を確保しています。
- 2 RSLは、他メーカーと違い自社工場で一貫生産しています。
- 3 RSLは、すべてをシャトルだけに注ぐ専門メーカーです。

詳しくはホームページの動画をご覧くださいませ

RSLショップ

検索

お電話でのご注文も受け付けています。(無料通話ダイヤル)

0800-888-4088 携帯・スマホからでもOK

選べるお支払い方法
安心の後払い | 領収書発行OK

代金引換

コンビニ

郵便振替

銀行振込



● RSL水鳥シャトルコック 商品ラインアップ

NO.1 ターニー
85年以上の歴史が証明。世界の最前線!

世界中で愛用されているNO.1ターニー。バドミントン大国のアジア各国だけでなくヨーロッパ全土でも活躍。その歴史の始まりは1928年。その後、何世代ものプレーヤーに引き継がれている、まさに世界の主流。

日本バドミントン協会 第1種検定合格球 価格 1本 **3,564円** (税込)

シルバーフェザー
実戦感覚磨く!強豪クラブの必需品

RSLシャトルの最大の特徴である耐久性(丈夫さ)が感じやすいのがこのシルバーフェザー。大会試合球に必要な飛行性能はもちろん、試合後の練習球として再利用できる点は見逃せません。実戦練習中心のクラブへ。

日本バドミントン協会 第2種検定合格球 価格 1本 **3,240円** (税込)

ファーストステップ
耐久性重視練習球。不動のロングセラー

あらゆるシャトルの品質レベルを独自調査。この価格帯では不可能と思えた耐久性を武器に、10年以上常に売れているのがこのファーストステップ。消耗品であるシャトルの頻繁な購入に悩まされているクラブへ。

10年超の実績!RSLの国内浸透を支えた立役者 価格 1本 **2,538円** (税込)

シャトルファイター
打球感重視練習球。RSL社唯一の天然ベース

シャトルファイターは、天然コルクベースを使って製造した打ち応えを重視した一般練習球。社会人クラブ・学校部活で愛用されています。特に、密度の濃い基礎打ち練習を行っているクラブにお勧めです。

使用クラブの86.6%が満足!打球感と節約両立 価格 1本 **2,376円** (税込)

2019年度

関東学生バドミントン選手権大会

2019年6月1日(土) ~ 2019年6月23日(日)

主催
主管

関東学生バドミントン連盟

後援

東京都バドミントン連盟

月 日	会 場	開場時間	月 日	会 場	開場時間
6月 1日(土)	神奈川大学 横浜キャンパス	9:00~	6月12日(水)	葛飾区総合 スポーツセンター	9:30~
6月 2日(日)	青山学院大学 相模原キャンパス	9:30~	6月14日(金)	市川市塩浜市民体育館	9:00~
6月 4日(火)	葛飾区総合 スポーツセンター	9:00~	6月17日(月)	市川市塩浜市民体育館	9:00~
6月 5日(水)	葛飾区総合 スポーツセンター	9:00~	6月18日(火)	市川市塩浜市民体育館	9:00~
6月 6日(木)	葛飾区総合 スポーツセンター	9:30~	6月19日(水)	市川市塩浜市民体育館	9:00~
6月11日(火)	葛飾区総合 スポーツセンター	9:00~	6月23日(日)	千葉大学 西千葉キャンパス	9:00~



関東学生バドミントン連盟

会 長 平 野 泰 宏

元号も変わり新しい時代の幕開けです。その最初の大会である関東学生バドミントン選手権大会が新種目となるミックスダブルスを加えて、盛大に開催されますことを大変喜ばしく思います。

この大会は、関東学生連盟が主催する個人トーナメントとなります。先に終了した関東学生春季リーグ戦では、各大学が新入生を迎え、新たなチームとして臨み、数々の熱戦が繰り広げられたことは記憶に新しいところであります。本大会では、リーグ戦で活躍した選手はもちろんですが、レギュラーとして出場機会に恵まれなかった選手諸君の奮闘も大いに期待しています。

ここで新種目となるミックスダブルス導入の経緯について触れておきます。これまで日本のバドミントン界におけるミックスダブルスは、男女シングルス、男女ダブルスに比べて強化が後回しとなる傾向にありました。しかし、現在日本バドミントン協会ではミックスダブルスに専任のコーチを配置するなど、東京オリンピックに合わせた強化が進んでいます。その流れを受けて、関東学生連盟においてもミックスダブルスの普及・強化策の一環として導入に至りました。また、今年8月に千葉県千葉市ポートアリーナで開催される第7回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会の予選会も兼ねております。新たな試みとなりますが、選手諸君の微笑ましくも、厳しく熱い戦いを期待してやみません。

これまで関東学生連盟では、学生諸君に対してプレーヤーである前に一社会人として、社会生活における基本的なルール、マナーの遵守を呼び掛け続けています。改めてこの紙面をお借りして、品行方正な行動を心がけるようお願いします。

終わりに、大会開催にあたり多大なるご支援をいただいたご関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、献身的に大会の準備、運営にあたってこられた関東学生連盟の学生諸君、並びに学連活動にご助言をいただきました役員の皆様にお礼を申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。



関東学生バドミントン連盟

委 員 長 金 子 瑠 奈

2019年度関東大学春季リーグ戦が無事に終わり、関東学生バドミントン選手権を迎えることができました。

本大会は、新入生にとって初めての個人戦となり、4年生は最後の関東選手権になると思いますが、日頃の練習の成果を十分に発揮するとともに、出場される選手の皆様が学生スポーツとしてマナーを忘れることなく、正々堂々と戦って下さることを願っております。さらに本大会は、Aブロックに新たに混合ダブルスが加わり、より盛大で活気のある試合展開が繰り広げられることと思います。

また、選手の方それぞれが体調及び怪我には十分に注意し、無事にすべての日程を終了されることを祈っております。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり御支援、御協力を賜りました関係者各位の皆様方にこの場を借りてお礼申し上げ、挨拶とさせていただきます。

要 項

1. 主催・主管	関東学生バドミントン連盟
2. 後援	東京都バドミントン協会
3. 協賛	ヨネックス株式会社、ミズノ株式会社、(株) R S L ジャパン、薫風スポーツ株式会社、 A.M.E シャトルセンター、バドミントンプロショップ WEMBLEY、ラケットショップフジ、 (株) ベースボールマガジン社、(株) アスリートプランニング
4. 期 日	2019 年 6 月 1 日 (土) ～ 6 月 2 3 日 (日)
5. 開 催 地	関東各都県
6. 会 場	神奈川大学、葛飾区総合スポーツセンター体育館、市川市塩浜市民体育館 他
7. 種 目	男子・女子 単・複 A・B、 混合複 A (B はなし)
8. 競 技 規 則	2018 - 2019 年度 (公財) 日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規定による
9. 競 技 方 法	各種目トーナメント方式とする
10. 使用用器具	(1) (公財) 日本バドミントン協会検定・審査合格用器具 (2) 平成 3 1 年度 (公財) 日本バドミントン協会検定合格水鳥球
11. 参 加 資 格	(1) 平成 3 1 年度 (公財) 日本バドミントン協会会員登録を完了している者 (2) 平成 3 1 年度全日本学生バドミントン連盟及び関東学生バドミントン連盟登録を完了している者 (3) 追加登録選手の参加は 4 月 7 日 (日) ～ 4 月 1 6 日 (火) 2 3 : 5 9 までに申込を完了すること (4) 過去に A ブロック出場経験或いは、B ブロック優勝経験のある者については A ブロックのみ出場可とする。また、各種目出場は同一ブロックに限る。 (5) 混合複は、平成 3 1 年度全日本学生ミックスダブルス選手権大会の有資格者同士によるペアリングでの参加を不可とする (詳細は別紙参照)。
12. 参 加 料	(1) 参加料 単 A・B ブロックともに 2, 0 0 0 円 複 A・B ブロックともに 4, 0 0 0 円 混合複 A ブロック 4, 0 0 0 円 (2) 振込方法 ホームページ参照 ≪切 令和元年 5 月 1 0 日 (金) 2 3 : 5 9
13. 申し込み ≪切	平成 3 1 年 4 月 2 5 日 (木) 2 3 : 5 9 まで
14. 申し込み方法	申し込みファイルを参照のこと
15. 表 彰	各種目、3 位まで表彰する
16. 大会事務局	〒 2 2 7 - 0 0 3 3 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町 5 6 0 - 5 サンヒルズ金子 3 0 3 関東学生バドミントン連盟委員長 金子 瑠奈 tel 090-3574-9834
17. 着 衣	色付き着衣を使用する場合は、競技の品位を保つために (公財) 日本バドミントン協会検査合格品とし、上衣ウェアの背面には大学名を必ず明示すること。また、ゼッケンを使用する場合は必ず 4 隅を固定すること。
18. 備 考	(1) 事故があった場合、応急処置は行うが、その後の責任は各参加者の負担とする。 (2) 病気・事故に備えて、各自健康保険証を持参すること。 (3) 大会参加に関して提供される個人情報、本大会活動に使用するものとし、これ以外の目的で使用することはありません。
注. 関東学生バドミントン連盟からのお願い	
(1) ゴミの持ち帰りにご協力ください。	
(2) 喫煙は決められた所定の場所で行うようにしてください。	
以上	

大 会 役 員

大 会 会 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	会 長	平 野 泰 宏
大 会 副 会 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 会 長	升 佑 二 郎
	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 会 長	大 東 忠 司
	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 会 長	吹 田 真 士
	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 会 長	平 井 克 英
	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 会 長	渡 辺 英 次
名 誉 顧 問	堀 江 繁 高 橋 雅 足	和 田 守 康	関 一 誠
	稲 積 宏 誠 佐 藤 政 光	伊 藤 栄 治	大 沼 孝 司
	齋 藤 健 司 嵯 峨 寿	小 宮 山 隆	加 藤 明
	加 賀 岳 彦		
参 与	全 日 本 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	委 員 長	園 原 昇 真
	全 日 本 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	会 計	日 山 美 佳
大 会 委 員 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	委 員 長	金 子 瑠 奈
大 会 副 委 員 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 委 員 長	井 村 友 哉
	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	副 委 員 長	三 澤 勇 斗
大 会 役 員	鴨 下 希 穂 (日体大) 片 桐 悠 夏 (早稲田) 高 橋 慶 (日 大)		
	高 野 拓 朗 (日体大) 五 島 あ かり (日体大) 日 野 滋 斗 (日 大)		
	湊 彩 華 (東女大) 阿 部 文 哉 (法政大) 佐 藤 優 太 (神 大)		
	齋 藤 晃 輝 (法政大) 國 分 俊 秀 (法政大)		
	金子元彦 佐藤健一郎 川合 光		
競 技 役 員 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	委 員 長	金 子 瑠 奈
(レフェリー)			
総 務 部 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	常 任 委 員	井 村 友 哉
(デビティ-レフェリー)			
総 務 副 部 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	会 計	鴨 下 希 穂
競 技 審 判 部 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	審 判 部 部 長	三 澤 勇 人
(デビティ-レフェリー)			
競 技 審 判 副 部 長	関 東 学 生 バ ド ミ ン ト ン 連 盟	常 任 委 員	阿 部 文 哉
監 事	兒 嶋 昇 一寸木 邦夫		
学 連 顧 問	平 井 克 英		

競 技 ・ 審 判 上 の 注 意

1.競技上の注意

1) 競技規則

本大会は、平成31年度公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規程により行います。

2) 試合開始前の練習時間に関して

試合前の2分間の練習のみ、トスの後に開始します。

3) インターバル

すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認めます。第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。

4) 連続試合の間隔について

連続試合の場合は、試合の間隔を15分とします。

5) 競技の服装

競技時の服装は、色付き着衣を使用する場合には(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。競技中のシャツの背面には、所属する大学の正式名称を必ず明示してください。

2.審判上の注意

1) 審判の担当

敗者審判制とします。

2) 審判担当上の注意

敗者選手(チーム)は試合が終了し次第、スコアシート・シャトルを本部席進行まで持ってきてチェックを受けてください。速やかに敗者審判の用紙を受け取り、担当試合のコートに向かいます。敗者審判の担当は、主審・線審(2名)、得点表示の4名で行います。

3) 試合の棄権の扱いについて

試合中の事故タイムは認めず、試合続行が不可能な場合は、これを棄権とみなします。なお、スコアはその時点のものを記録します。

3.受付について

試合当日のチェック(受付)は案内放送に従い、本部席受付にて各自済ませてください。なお、受付が済んでない場合や試合開始の時点で選手がコートにいなかった場合は棄権とみなします。

4.その他の注意

1) 選手は故意に試合進行が遅れるような態度をとってはならない。

2) 試合中、選手以外は競技区域に入ってはならない。

3) 試合中の水分補給・汗拭きは、主審の許可をとってからおこなうこと。

その際に、アドバイスを受けることは認めない。

4) 体育館のフロア以外(ロビー・観客席・通路)では絶対にシャトルは打たないこと。

5) 当番校には、審判補佐・コートの片付け等を協力していただくので、体育館に残り放送に注意していただきたい。

5.体育館使用上の注意

1) 施設・設備に損害を加えた場合には、すみやかに申し出ること。

2) 喫煙は所定の場所でおこなうこと。

3) 更衣室・シャワー室には荷物等は置かないこと。盗難には各自が気をつけること。

4) 体育館への試合状況等に問い合わせを禁じます。

スコアリングシステムについて

21P×3G(ラリーポイント制)MAX30P

*21P×3G(ラリーポイント制)の場合の試合形式概要

(1) ゲームで21点を先取したサイドがそのゲームの勝者となる。〔7.2〕

(2) ラリーに勝ったサイドが、1点ずつ得点する。〔7.3〕

(3) スコアが20点オールになった場合には、その後最初に2点リードしたサイドがそのゲームでの勝者となる。〔7.4〕
→そのとき、主審は「20オール」とコールする。

(4) スコアが29点オールになった場合には、30点目を得点したサイドがそのゲームでの勝者となる。〔7.5〕
→このとき、主審は、「29ゲーム(マッチ)ポイントオール」とコールする。

(5) エンドの交替〔8.1〕

① 第1ゲームを終了したとき

② 第2ゲームを終了したとき(第3ゲームを行う場合)

③ 第3ゲームで、どちらかのサイドが最初に11点に達したとき

(6) サービスとは(抜粋)〔9.1〕

① サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点が、サービスの始まりを不当に遅らせているかどうかの判断基準となる。〔9.1.1〕

② サーバー及びレシーバーの両足の一部分は、サービスを始めてからサービスがなされるまで、その位置でコート面に接していなければならない。〔9.1.3〕

③ サーバーは、ラケットで最初にシャトルの台を打つものとする。〔9.1.4〕

④ サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体がサーバーのウエストより下にならなければならない。ここでいうウエストとは、肋骨の一番下の部位の高さで、胴体の周りの仮想の線とする。〔9.1.5〕

⑤ サーバーが持つラケットのシャフトは、シャトルを打つ瞬間に下向きでなければならない。〔9.1.6〕

⑥ サーバーのラケットは、サービスを始めてからなされるまで前方への動きを継続しなければならない。〔9.1.7〕

(7) シングルのスコアリングとサービス〔10.3〕

① サーバーがラリーに勝ったとき、そのサーバーは1点を得ることとする。そして、そのサーバーがもう一方のサービスコートから、再びサーブをする。〔10.3.1〕

② レシーバーがラリーに勝ったとき、そのレシーバーは1点を得ることとする。そして、そのレシーバーが新しいサーバーとなる。〔10.3.2〕

(8) ダブルスのスコアリングとサービング〔11.3〕

① サービングサイドがラリーに勝ったとき、サービングサイドが1点を得る。そして、そのサーバーが再びもう一方のサービスコートからサービスをする。〔11.3.1〕

② レシービングサイドがラリーに勝ったとき、レシービングサイドが1点を得る。そして今度は、そのレシービングサイドが新しいサービングサイドとなる。〔11.3.2〕
そのとき、自得点が偶数なら右の、奇数なら左のサービスコートから、その位置にいるプレーヤーがサービスを行う。〔11.1〕

③ サービスの連続(順番)〔11.4〕

ゲーム始まりのサーバー→最初のレシーバーのパートナー→最初のサーバーのパートナー→最初のレシーバーへ

(9) サービスコートの間違い

① サービスやレシーブの順番を間違えたときや、間違ったサービスコートからサーブしたり、レシーブしたときはサービスコートの間違いである〔12.1〕

② もしサービスコートの間違いが見つかったときは、その間違いは訂正し、スコアはそのときのままとする。〔12.2〕

(10) アドバイスとコートから離れること〔16.5〕

① シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ(試合)中、アドバイスを受けることができる。

② プレーヤーはインターバルを除き、マッチ(試合)中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。

(11) 主審によるコレクションの適用〔17.5〕

主審は、もし線審が明らかに間違ったコールをしたと確信する場合には、線審の判定を変更することができる。

サービス高に関する新ルールに対する暫定処置 ①

平成 3 1 年 3 月 8 日

加盟団体

競技審判部会部員

公認レフェリー 各位

公益財団法人日本バドミントン協会

競技審判部長 山田順一郎

サービス高を 1.15m に固定する新ルールに対する

判定方法の暫定処置について

平素より本会へのご理解とご尽力賜り誠にありがとうございます。

さて、サービス高の固定に関してですが、サービス高を 1.15m に固定するルールが 2 0 1 9 年度 4 月 1 日から運用されることに伴いその判定方法につきまして、国際バドミントン連盟 (BWF)、アジアバドミントン連盟 (BA) 主催の大会では BWF 公認の判定装置を使用し、サービスジャッジによる判定がすでに実施されておりますが、BWF 公認の判定装置が整っていない国内大会の現状ではどのようにして判定するかについて、第 2 回競技審判部会で協議がなされ、サービスジャッジ (サービスジャッジがない場合は主審) による現時点における判定方法は以下のように行うことで意見統一がなされましたのでお知らせいたします。

「ポストやプレーヤーの着衣にコート面から 1.15m 高さのところにテープやリボンなどでマークを付け、そのマークを基準にコート面から 1.15m の高さのところに水平面をイメージし、判定をする」

色々と「ご意見」や「お考え」があるかと思いますが、4 月 1 日から施行という現状を考慮し、現時点では記述の判定方法の実施をお願いすることになりました。しかし、改善の余地は大いにあると思います。今後、判定を実施していく段階でよりよい判定方法が判明した際には、どしどし日本バドミントン協会までご意見を賜りますようお願い申し上げます。

サービス高に関する新ルールに対する暫定処置 ②

平成 3 1 年 2 月 1 3 日

加盟団体 各位

(公財) 日本バドミントン協会

競技審判部長 山田順一郎

1.15m サービス高の固定の実施ならびに

公認審判員資格検定会講習会ルール教本 2019 (緑本) の
発行について

平素から本会の競技審判活動の普及発展にご理解とご尽力を賜り誠に有難うございます。さて、1.15m のサービス高固定につきましては昨年 1 2 月に開催されました BWF 理事会において 1.15m サービス高の固定について協議がなされ、1.15m サービス高の固定が継続して実施されることが決まりました。本会是一部の国際大会を除いて平成 30 年度はサービス高の固定は採用しないこととしてきましたが、この結果を受け本会としまして 2019 年度 4 月 1 日より、競技規則を下記の通り改訂し施行することにしました。つきましては関係方面への周知徹底をよろしくお願いいたします。

また、競技規則書 (赤本) については、2018・2019 版を既に発刊していることから 2019 年度につきましては改訂版を発刊せず、毎年発刊している公認審判員資格検定会講習会ルール教本 2019 (緑本) において他の改訂部分も含め掲載し、競技規則書 (赤本) の改訂版に代わるものとするにとしましたご理解の程、よろしくお願いいたします。

記

(現行)

競技規則 第 9 条 第 1 項 (取り消し線は現行の条文から抹消される箇所を示す)

(6) ①サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体がサーバーのウエストより下になければならない。ここで言うウエストとは、肋骨の一番下の部位の高さで、胴体の周りの仮想の線とする。

②実験的に判定装置を使用する場合については、サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体が必ずコート面から 1.15m 以下でなければならない。(平成 30 年度は採用しない)

(7) サーバーが持つラケットヘッド及びシャフトは、シャトルを打つ瞬間に下向きでなければならない。(上記 (6) ②の施行の場合は本項は削除)

(改訂後)

競技規則 第 9 条 第 1 項

(6) サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体が必ずコート面から 1.15m 以下でなければならない。

以上